

長崎市立西北小学校 研究主題

夢中になって学びに向かう児童の育成
～自立した学習者をめざして～



○ 西北小学校の子供たちの実態

予測困難で変化の激しい社会において、多様な課題に主体的に対応できる力を養うため、生涯にわたって学び続ける力を身に付ける「自立した学習者」の育成が求められている。そのために学校では、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善が行われてきた。では、西北小学校の授業実践では、子供にどんな資質能力を付けてきたのだろうか？



令和6年度全国学力学習状況調査より
国語：全国平均+2ポイント
算数：全国平均+5ポイント

令和6年度長崎県学力調査より
国語：県平均+4ポイント
算数：県平均+4ポイント
理科：県平均+5ポイント

令和6年度全国学力学習状況調査質問紙では…

学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか		
本校	長崎県	全国
94.3	86.4	86.3
授業や学校生活では、友達や周りの人の考えを大切に、お互いに協力しながら課題の解決に取り組んでいますか		
本校	長崎県	全国
95.7	92.1	91.6



子供たちは、集中して学習に取り組んでいるし、学力も全国・県平均を上回っている。また、対話的な学びについても手ごたえを感じているようだ。しかし、子供たちは本当に主体的に学んでいると言えるのだろうか？

○ 成果と現状①[授業での子供の姿 (NSKT)]

N ねばり強く取り組み自分を律する子供
自己学習調整力

- 言語活動の内容を選択させることで、子供がこれまでの学びのまとめを粘り強く表現することができた。4年国語
- 友達の良さを書く付箋の枚数や伝える相手を自己選択させることで、時間いっぱいまで活動に夢中になって取り組んだ。1年道徳
- 学習課題を身近なことに重ねることで(学級の係活動の課題の解決)、終末まで課題解決への意欲をもって取り組んだ。3年算数
- 学習リーダーから教えてもらうことで、夢中になって取り組み、力を付けることができた。6年体育(水泳)
- 学習に長い時間集中するようになった。何をしてもよいかわからず取り組みない子供が減った。2年

K 客観的に自分を把握できる子供
学習状況把握力

- 2コマ漫画を用いて、自分の学びの足跡を可視化することで、子供が単元全体を見直し、単元末には自分の学びを自覚し整理することができた。白らの学習状況を把握することができた。3年算数
- 友達の手紙(他者からの評価)から自分の良い所に気付いたり、自分の良い所を確かめたりすることができた。1年道徳
- 他者参照をすることで、自分の学習状況を把握することができた。5年国語
- 座標軸とネームプレートを使うことで、自分の立場を明確にすることができた。また、友達の立場も把握することができた。6年道徳

○ 成果と現状②[教師の姿容]

- 学習は、教師主導ではなく、子供たちが主体であることを意識するようになった。
- 「委ねる」ためには、深い教材研究が必要になり、教師力の成長にも大きくつながった。
- 1単位時間内の授業の組み立て、特に時間を作り出すことを意識するようになった。また、自分がどのような役割で何をするのかを意識して授業を行うようになった。

S 主体的に選択・決定できる子供
主体性

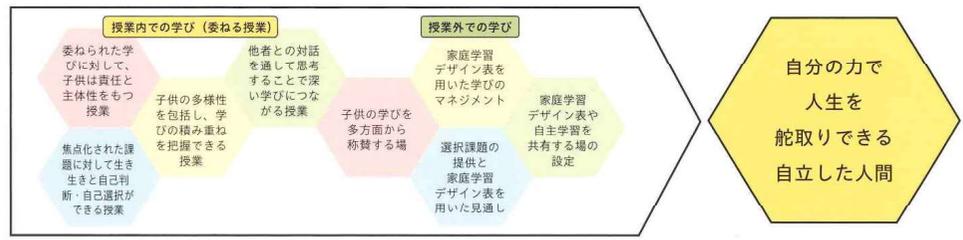
- 自分の考えを進んで表現できる場の工夫をすることで、学びへの意欲も向上した。(図工教材を活用した意見交換) 1年道徳
- 明確な相手意識をもたせる言語活動の設定によって、意欲的に学習に取り組めた。4年国語
- 学級の課題をどのようにすれば解決できるかという全体の課題に対して、自分なりの問いを立てて単元を始めたことで、自分事として学習を進めることができた。3年算数
- 本時のゴールを焦点化しておくことで、一人一人が見通しをもって活動することができた。5年国語
- 自分の学習状況に応じて、学習を選択するようになったり、考えて学習を行ったりするようになった。特文

T 他者との関わりの中で成長する子供
協働力

- ペアでの対話を通して、自分の考えや視野を広げることができた。一人で悩む時間が短くなった。1年道徳
- 目的が明確な対話活動(「ごんと兵十の心は通じ合ったのか?」)を仕組むことで、対話の場が意見交換の場から、学びを進め深める場となった。4年国語
- 他地域や他学年との学び合いを取り入れることで、憧れをもったり、ロールモデルになろうとしたりする姿が見られた。特支・1年・5年
- 対話を通して、考えが変化したり深めたりすることができた。6年道徳

○ 今後に向けて

令和6年12月「初等中等教育における教育価値の基準等の在り方について」(中教審諮問)では、「生涯にわたって主体的に学び続け、自らの人生を舵取りする力を身に付けることの必要性が増している」と記してある。これまで、子供を学習の主体者にするために、西北小職員一人一人が、研究の主体者となり、「授業改善」「家庭学習へのアプローチ」「個人研究」を通して、研究を進めてきた。本研究の趣旨は、今後一層私たち教育現場に求められる視点であると考えている。子供たちが6年間で、自立した学習者として歩みを止めず、将来、自分の力で自身の人生を開拓していく姿を見据えて、今後も、子供と共に学び(授業)に向かっていきたい。



○ 他の質問項目に目を向けると…

分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することはできていますか

本校	長崎県	全国
75.5	79.2	80.7

5年生までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか

本校	長崎県	全国
78.5	81.2	81.9

学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか

本校	長崎県	全国
78.5	81.1	80.8

これまで積極的に「対話的な学び」を取り入れてきた成果はあるが、子供たち一人一人はまだ主体的な学習者になっていないと言えないようだ。自立した学習者になるためには、「学びに向かう力」の育成が必要だ。



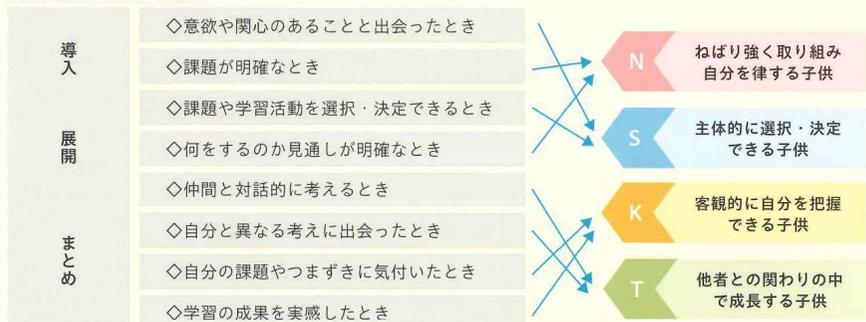
「学習指導要領の趣旨の実現に向けた個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に関する参考資料 (R3.3)」の中で、(1)主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善については、文部科学省は次のように示している。「授業改善にあたっては、学習の進め方(学習計画、学習方法、自己評価等)を自ら調整していくことができるよう指導することを一つの柱として行うことが考えられます。また、学校の授業以外の場における学習の習慣や進め方についても視野に入れ、指導を行うことが重要です。」

一方で、新型コロナウイルス感染症の感染拡大を受け、学ぶ意義を十分に感じだせず、主体的に学びに向かうことができていない子供が多くなっているという教育課題が浮き彫りになった。こうした課題は他人事ではない。

○ 授業内の学びと授業外の学び

授業内の学び

授業過程と NSKT の場面



学びに向かう力の確立

N <ねばり強く取り組み自分を律する子供>
 ○一人では解決が難しそうでも協働的に取り組めば解決できそうと手を伸ばせば届きそうな課題、文末が疑問形となって結論が明確になるような課題を提示する。
 ○学習のゴールまでの道筋(単元学習計画)をはっきり示す。
 ○対話集団の自己選択を行わせる。

S <主体的に選択・決定できる子供>
 ○解決方法、解決のための手段を選択させる。
 ○はっきりとした相手意識をもつことができる活動(学習のゴール)の設定を行う。
 ○子供が自分の立場を明確に表現できる課題、場面をつくる。
 ○課題解決を子供に委ねる。

K <客観的に自分を把握できる子供>
 ○他者から評価される場面を設定する。
 ○振り返り場面の定着を図り、自分の学びの足跡を可視化させる。
 ○他者参照(スプレッドシートなど)を用いることで、自分の学習状況の把握をさせる。

T <他者との関わりの中で成長する子供>
 ○めあてを解決するための学習活動は考える場面对話的に進めさせていく。
 ○教師は、子供の課題解決を見守り、場を整え、子供同士のつなぎ役に徹する。
 ○他者を受け入れる対話、学級づくりを行う。

西北小学校の子供たち自身が、自分の学習の状況を理解しながら、自分の学習に責任をもってほしい。「教師がいなければ学習しない」という子供に絶対にしたくない。西北小学校の子供たちには、「夢中になって学びに向かう力」を身に付けさせたい。そのためには、授業内の学びと授業外の学びのマネジメントが必要だ。令和6年3月長崎県教育委員会発行「学びの習慣化メソッド」をベースに、西北小学校で「学びに向かう力の育成」を実現していこう。



「もっともっと、子供たちを学習で夢中にさせたい。目を輝かせさせたい!そして、自分で学びづくりに取り組ませたい!」では、西北小の夢中になって学びに向かう子供とはどのような姿なのか整理してみよう。



学びに向かう子供の姿 (NSKT)



授業外の学び

子供の学びを整理した図



<子供の学びの整理>
 今までは「宿題」という言葉が広い意味をもち、学級単位で学びの定義が異なり、学びの線引きが曖昧だった。そこで子供の学びを改めて整理し、定義付けを行うことで、校内において共通認識をもち、統一した指導を行った。

より詳しい内容は校内で発行した家庭学習通信でご覧ください



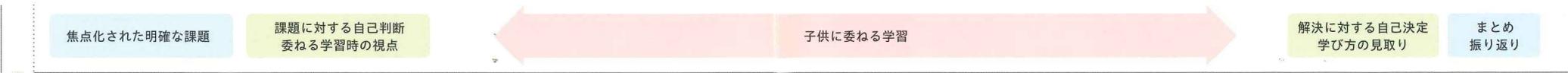
N <ねばり強く取り組み自分を律する子供>
 ○課題の量や難易度を調整する。
 ○頑張りへの称賛をする。
 ・過程を褒める。 ・具体的に褒める。
 ・成長を誉める。(過去と比較して)
 ○家庭学習の目的を考えさせる。

S <主体的に選択・決定できる子供>
 ○教師からの課題を一部選択制にする。
 ○授業中に家庭学習を扱う。
 ○家庭学習デザイン表で学習の見通しをもたせる。
 ○単元テストの日程を事前に知らせる。(日程や範囲が分かるようにする)

K <客観的に自分を把握できる子供>
 ○家庭学習デザイン表に家庭学習の振り返りを蓄積させ、自己把握をさせる。
 ○子供の日々の振り返りを教師が評価・価値付けする。(教師⇄子供)
 ○家庭学習や家庭学習デザイン表(学習の仕方)を友達と見せ合う場を設定する。(子供⇄子供)

T <他者との関わりの中で成長する子供>
 ○家庭学習(具体物)や家庭学習デザイン表(学習の仕方)を友達と見せ合う場を設定する。(子供⇄子供)
 ○自主学習を見せ合う場を設定する。(子供⇄子供)
 ○友達と協力して行う自主学習を紹介する。

○ 委ねたときの子供の姿と委ねるための教師の役割



学習過程

<十分な教材研究による焦点化された課題と思考の視点の提示>
 子供に学習を委ねるためには、本単元、本時間で何を学ばせるべきかを明確にすることはもちろんであり、どんな視点で子供が思考し、知識・技能を習得していくかを考え、委ねる学習の前にそれを子供に提示していく。

<教師の役割>
 子供の対話をうながすために実態に応じて、様々な役割を担う。ここでは、教師が主導するのではなく、以下にあるような役割を意識しながら、子供に学習を委ねていく。子供の学びに向かう姿を見取りつつ、学びを深める対話ができるようにするために、指導・支援にあたる。

<学びの良さの見取り>
 他者の考えを受け止める姿や適した表現方法で伝え合う姿など学び方の良さを称賛し、次時の委ねる学習へつなげる。また、本時を生かした家庭学習への働きかけも行う。

子供の姿

昨日の学習では、〇〇をしたな。今日は、△△を考えたいな。

前回の学習の〜〜が使えそう。まずは、〜〜を使って考えよう。

A君の考えを聞きたいな。

C君はどう考える？私は、〜〜だと思うよ。Bさんにも聞いてみよう。

この考えを、図（表、グラフ、文）にまとめてみようと思うんだけど、どう思う？

そろそろ、学習のまとめだ。他の人と自分の考えの同じ所や違う所を探そう。

みんなの考えを聞いて、やっと分かった。話せてよかった。

今日は、△△について考えるのか。どうやって考えようかな？

今日は〇〇について考えるのか。まずは、友達と話してみようかな。

うーん。どう考えたらいいのかな？誰かに聞きたいな。

私は、〜〜を使って考えたよ。同じだね。でも、A君は、私と違って〇〇って考えたって言ってたよ。

△△を使って答えを出した。A君は〇〇を使って考えてるみたい。私も〇〇を使ってみよう。

Dさんは図にまとめてみようかな。

表し方（言葉の使い方、導き方）は違うけど、考え方は同じだね。

今日の学習で出てきた〇〇について自主学習で調べてみよう。

教師の役割

疑問形で課題の提示

〜〜なのはどっちだろう？
 〜〜するには、どうしたらよいらうか？
 〜〜は、いくつあるだろうか？

解決のためにこれまでの学習で生かせそうなものはないかな？
 委ねる学習の時の視点の提示

調整役 見通しをもって時間の割り振りをする。	補助役 教材教具等で学びの前進を促す。	つなぎ役 個々の学びをつなぐ。	補充役 深化させる投げかけをする。	舵取り役 学びの方向、視点の修正する。	ゆさぶり役 あえて誤答、別解を提示し、方向性を示す。	整理役 委ねる時間で考える視点の整理をする。	拡張役 思考の視野を広げる投げかけをする。	共感役 子供の学び方、気づきを誉め、自信を与える。	整頓役 学びのゴールに向けて考えの整理を促す。
----------------------------------	-------------------------------	---------------------------	-----------------------------	-------------------------------	--------------------------------------	----------------------------------	---------------------------------	-------------------------------------	-----------------------------------

Cさんたちの話し合い方は、〜しているところが良かったですよ。

子供の学びの整理と学習方への見取り

考える時間は、何分ぐらい必要ですか？

〇〇だとそうなるんだね。△△を使うと、どうなるかな？

AグループとBグループは、全く違う考え方でおもしろいね。交流してみたら？

では、〜〜のやり方でも考えられるかな？

つまり、〜〜ということかな？

いい考え方だね。あなたのおかげで学びが深まったよ。

黒板に出ている考えで、似ているものはないですか？

今回の学習が次にどうつながるか、楽しみですね。

5年国語 「伝えたいことを整理して、報告しよう みんなが使いやすいデザイン」

前の時間を振り返り、今日の1時間は、どんなことをがんばるのか、学習計画をもとに考えましょう。

身近にあるユニバーサルデザインのものを用意しています。手に取ってみてもいいですよ。

自動水栓は、学校にもあるな。でも、ちゃんと見たことないから確かめに行ってみよう。

4年生の総合の時間に学習したユニバーサルデザインのことが、使えそう。

ユニバーサルデザインでなかった場合には、どうなるだろうね？

他家参照のスプレッドシート

Aさんと同じようにBさんも案内板について調べようとしていますよ。

家にも、色々な容器があるから、クロムブックで写真をとってようかな。

本にある情報は、信頼性が高いです。インターネットは幅広く情報を集めることができる一方で……。

写真を見たり、本を手にとったりして、興味をもって題材を決められていましたね。

舵取り役

補充役

つなぎ役

拡張役

3年算数 「わり算」

焼きそばを分けたり、ケーキを分けたりするような場面が、これまでの生活の中でありましたか？

分けるときに、気をつけることは、何でしょうか？

1個ずつ分けた人と、見当をつけて何個かずつ分けた人がいますよ。

おはじきを使って、1人に1個ずつ分け、順番になくなるまで分けていって答えを出したよ。そうすると、1人分が4個になったよ。

4 × 3 = 12 だから、1人分は4個ずつになるんじゃないかな。

どの分け方でも、1人分は4個だね。この考え方を式に表すことはできないのかな？

1人分は4個になるみたいだね。どうやって分けたのかを話してみよう。

12個を3人で同じ数ずつ分けると1人分は4個になるね。これを式に表すと、12 ÷ 3 = 4と書きます。

同じ所や違う所を見つながら、学習を進めていたところがよかったですね。「ここが似ているね。」という言葉を使っていたいいですね。

黒板にあるそれぞれの考えの似ている所、違う所を一緒に見ていきましょう。

調整役

舵取り役

つなぎ役

補充役

整頓役

○ 家庭学習の具体的な取組

①最終的に目指す子供像の設定

漢字 50 問テストが近いから、この1週間は漢字練習を多めにしよう。

「体積」の単元テストがよくなったから、復習しなきゃ。

授業で学習した室町時代の武士のくらしをもっと知りたいから調べてみよう。



- ・高学年で「自立した学習者」になることを目指す。
- ・課題メインの家庭学習から自主学習メインへと段階的に進めていく。
- ・各学年の現状に合わせて課題を設定する。

②各学年における家庭学習の統一

低学年	<ul style="list-style-type: none"> ・教師からの課題がメイン ・AIドリルやプリントを活用した選択学習 ※自主学習の推奨を行いつつ、学習習慣をつけることを優先する。
中学年	<ul style="list-style-type: none"> ・教師からの課題がメイン ・AIドリルやプリントを活用した選択学習 ・自主学習を週に1～2回
高学年	<ul style="list-style-type: none"> ・自主学習がメイン（自分で計画を立てる） ・教師からの課題（なくなるわけではない） ・AIドリルやプリントを活用した選択学習



③家庭学習デザイン表の活用



使い方

- ①学習した内容・量・時間を書く。
- ②その日の振り返りを書く。週末には1週間の学び方の振り返りを書く。

メリット

- 日々の振り返りを繰り返し行うことで、自分の学習量や学習方法を客観的に把握できる。また、自身の成長を実感することができる。
- 子供同士でデザイン表を見せ合うことで、学び方自体を共有し、自分の学習スタイルに生かすことができる。
- 教師が子供の学習状況を細やかに見取り、コメント等で助言することで、やる気を向上させることができる。



家庭学習デザイン表の見本はこちらから

○ 子供の姿や変容

家庭学習デザイン表の振り返り（5年生）

習い事で夜おそくに宿題をしました。(7かかしました。)

2カ月後

1 今日体積と内積がわかっていい。なことが自分分かった。今日はほいほいして宿題を早く終わらせた。宿題の内積のところも学習しました。おどろきもはかどりました。おどろきもはかどりました。(43)分間

2 今日は私が大得意なところについて言っていて生産量が日本では何倍か。たかたか6位まで上がりました。そして自分で学習して、おどろきもはかどりました。おどろきもはかどりました。(43)分間

- ①自分に必要な学習を把握したり、
- ②学ぶこと自体を楽しんだりする姿が見られるようになった。

Z-1（自主学習）グランプリ



渾身の自主学習を学年間で見せ合い、投票数に応じて表彰した。今後の家庭学習の参考になったり、刺激を受けたりと学びへ向かう雰囲気が徐々に形成された。(4年生)

自主学習ノートの変容



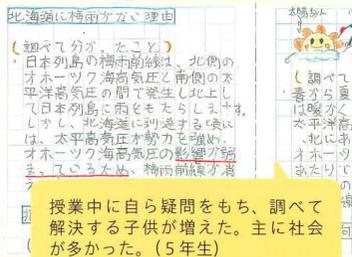
社会や算数の予習が増えた。授業中にしたい活動を考える子供もいた。(6年生)



自作のミニテストや印をつける等、漢字練習を工夫して行うようになった。(5年生)



小見出し、矢印、イラストなど表現を工夫するようになり、まとめ方が上手になった。(6年生)



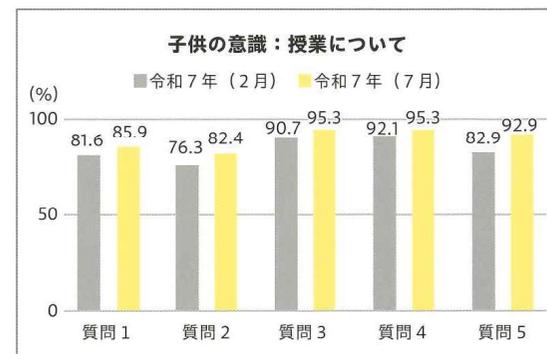
授業中に自ら疑問をもち、調べて解決する子供が増えた。主に社会が多かった。(5年生)

○ アンケート結果と考察（全学年児童）

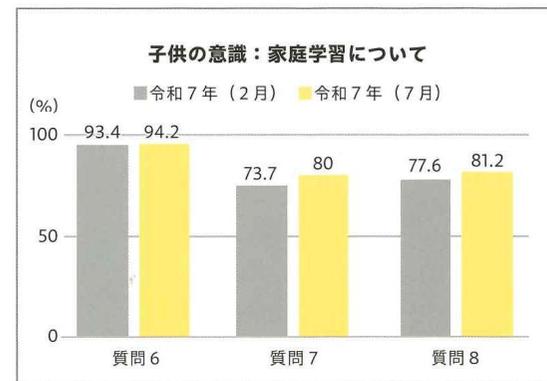
本研究では、子供が自立した学習者として自分を客観的に捉えるために、以下の項目でアンケートを作成し意識調査を行った。(全国学力調査の質問項目も含む)

- 質問1. 授業では、自分で学び方を工夫しているか。
- 質問2. 授業では、解決に向けて考え、試しているか。
- 質問3. 友達との話し合いが解決に役立つか。
- 質問4. 友達と協力して学ぶことが授業の理解を深めるか。
- 質問5. 学習の振り返りを行っているか。
- 質問6. 家庭学習は大切だと思うか。
- 質問7. 計画を立てて家庭学習を進めているか。
- 質問8. 自分で考えた自主学習をすることが好きか。

【子供の意識の経年変化】「そう思う」と回答した割合



どの質問項目においても肯定的な回答が増加していることから、自分で学び方を考える等、学びに主体的になっていると言える。これまでの経験を通して、自ら課題を解決する力や学び方に対する自信が確立されてきたことが分かる。



家庭学習においては、計画を立て、自主学習を自ら考える子供が増加している。教師の働きかけをきっかけとして、子供が自立へ向けて取り組み始めたことが分かる。